

アルミ 需給はなお供給不足か

原料 相場は上昇も

橋本金属 橋本健一郎氏リポート②

■概況

八月前半は中国政府発表の七月の中国非製造業PMIは五四・二に低下、六カ月ぶりの低水準だったことや、七月のHSBC中国非製造業購買担当者景気指数(PMI)は五〇・〇と六月から大きく低下し、二〇〇五年十一月の算出開始以来で最低だったこと、七月のHSBC中国サービス部門PMIは五〇に低下、九年ぶりの低水準などマイナスマテリアルもあつたが、中国のアルミ地金およびアルミ製品の輸出は三年ぶりの高水準。七月の輸出量は三八万トンで、二〇一一年七月の三九万トン以来だったこと。海外市場での価格上昇で輸出急増。ポルトガル政府、大手銀行のBESを四九億ユーロで救済と発表したこと。七月の中国自動車販売は前年比六・七%増の一六〇万台だったこと、ロシア軍が演習を終了したとの報でウクライナ緊張が和らいだことを好感し、LMEアルミ相場は下げ幅を圧縮、八月十五日時点まで、九九二ドル(現物後場買い)と月初価格から一三ドル下げての前半締めとなった。

後半は米の七月の新築住宅販売は二カ月連続のマイナス、前月比二・四%減の四一万二、〇〇〇戸で三月以来の低水準と予想外だったこと、七月の米景気先行指数は前月比〇・九%上昇、予想の〇・六%上昇を下回ったこと。八月のユーロ圏景況感指数は一〇〇・六に低下、業況指数は〇・一六に悪化するなどマイナスマテリアルもあつたが、米週間新規失業保険申請件数は二九・八万件に減少、予想の三〇万件を下回ったこと、七月の米中古住宅販売契約指数は前月比三・三%上昇、予想の〇・五%上昇を上回ったこと。八月の米消費者信頼感指数は九二・四に上昇、予想の八九を上回ったことを好感しUP、九月二日現在、LMEアルミ相場(現物後場)は二、〇八〇ドルと後半スタートから九五ドル上昇してのスタートとなった。

■前月の経済指標

●月間のドル/円レート(TTS)
一〇三・七五→一〇五・〇六(円)

●自動車生産台数

日本自動車工業会によると、自動車生産台数は前年比一・七%減の八九万四、七四二台。

●自動車販売台数

日本自動車販売協会連合会によると、自動車販売台数(軽除く)は前年比五%減の二〇万六、六〇六台。

●新設住宅着工戸数

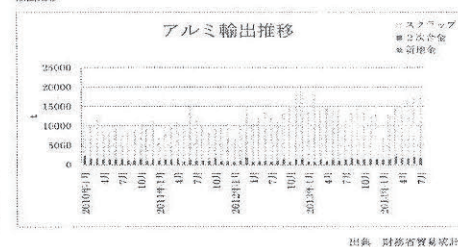
国土交通省統計によると、新設住宅着工戸

数は前年比一四・二%減の七万二、八八〇戸。

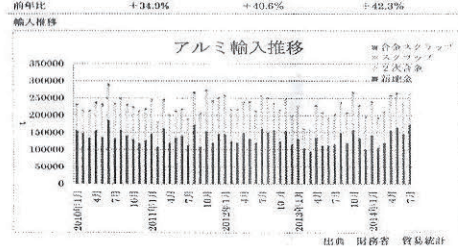
●貿易関連指標

財務省貿易統計によれば、輸出はアルミ新地金が前年比七・八%増の一四五t、二次合金が二八・五%増の一、五一八t、スクラップが四四・二%増の一、〇五九t。輸入は新地金が前年比五〇・九%増の一七万三、二二二t、二次合金が三・四%増の八万八、八七五t、スクラップが三八・八%増の一、一一五t、合金スクラップは四二・三%増の五、八一〇t。

	5月	6月	7月
輸出金	148 t	318 t	145 t
前年比	+15.1%	+96%	+7.8%
二次合金	1368 t	1389 t	1318 t
前年比	+33.8%	+67.4%	+28.8%
スクラップ	1600 t	1万5667 t	16039 t
前年比	+17.4%	+19%	+44.1%
輸出推移			



	5月	6月	7月
輸入金	16万3414 t	14万6372 t	17万3132 t
前年比	+46.7%	+28.9%	+66.9%
二次合金	9万6608 t	8万9749 t	8万8870 t
前年比	+3.2%	+10.2%	+3.4%
スクラップ	1087 t	906 t	1115 t
前年比	+61.8%	+85.4%	+36.8%
合金スクラップ	4760 t	4601 t	5910 t
前年比	+34.9%	+40.6%	+42.3%
輸入推移			



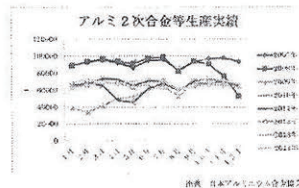
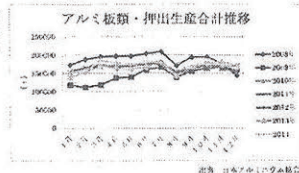
■前月の国内指標

日本アルミニウム協会発表の圧延品の生産出荷動向によれば、板類・押出生産合計は前年比二%増の一八万二、八九九t。

日本アルミニウム合金協会発表のアルミニウム二次合金・同合金地金等生産実績は、前年比三・一%減の七万二、八二三tであつた。

(六面へ続く)

(四面上り続く)



■見通し

今月も引き続きウクライナ情勢の行方、及び中国の景気対応に一喜一憂した月となった。

自動車生産台数は八万九千四百七十四台で、前年同月の九万一千二百六十六台に比べて一万五千四百四十一・七％の減少となり、一カ月ぶりに前年同月を下回った。

乗用車七万五千三百五十二台で、一八八台・二・四％の減少となり、一カ月ぶりのマイナストックとなり、一三万台連続のプラス・バス二万四千六百五十五台で、六四四台・一三・二％の増加となり、二カ月連続のプラス。七月の国内需要は四十六万・二六〇台で、前年同月比二・五％の減少。

八月の国内自動車販売台数(軽貨物除く)は、二〇万六千六百六十六台で前年比五・五％減。一カ月ぶりマイナス。うち乗用車は五・九％減。貨物一・一％増。バス五・二％増。輸出は前年同月比〇・一％の増加。

七月の住宅着工戸数は、七万二千八百八十八戸(前年同月比一四・一％減、季節調整済年率換算値で八三・九万戸・前月比五・〇％減)。堅調に推移してきたが、このころ、消費税率引上げに伴う駆け込み需要の反動もあって、減少している。

持家(注文住宅)の着工については、本年二月から前年同月比で減少している。分譲マンションの着工については、建築費の上昇等の影響により、事業者間の契約・着工が先送りされているとの事業者の見方がある。また、貸家の着工については、相続税の節税対策等もあり、堅調に推移してきたが、前年同月比で一七カ月ぶりに減少したこのような状況のもと、住宅着工については、今後の動向をしっかりと注視していく必要がある。

(持家)

前年同月比では六カ月連続の減少(前年同月比二五・三％減、季節調整済の前月比七・九％減)。

(貸家)

前年同月比では一七カ月ぶりの減少(前年同月比七・七％減、季節調整済の前月比九・二％減)。

(分譲住宅)

前年同月比では六カ月連続の減少(前年同月比七・七％減、季節調整済の前月比一・二％減)。

(分譲マンション)

前年同月比では六カ月連続の減少(前年同月比一・二・七％減)。

(分譲二戸建住宅)

前年同月比では三カ月連続の減少(前年同月比三・七％減)。

日本アルミ・ワム日金協会発表のアルミ・ワム二次合金・同合金地金等生産実績は前年比三・一％減の七万二千八百三十七であった。

アルミ・庄延・押出品生産数は二・〇％増の一八万二、八九九・一カ月連続プラス。

アルミ輸出は新地金が前年比七・八％増の一四五・二、二次合金が二・八・五％増の五、一八七、スクラップが四四・一増の一六、〇五九・一。

世界的な需要増(米ボーイング社、米中の好調な自動車生産や、過去最高のプレミアムなどからLM E価格が二、一〇〇ドル近辺まで上昇した)と背景に輸出増との見解。

輸入は新地金が前年比五・〇・九％増の一七万三、一三二・二、二次合金は三・四％増の八万八、八七五・一、スクラップは二・八・八％増の一、一五七、合金スクラップは四二・三・三％増の五、八八一・一。

前月から一転、住宅、自動車はアベノミクス特需から減少しているが、アルミは自動車および部品輸出が堅調なことから上昇。

アルミ価格に関して

住宅関連は新設住宅着工数が前年比一四・一％減、持家二五・三％減、貸家七・七％減、分譲住宅七・七％減、分譲マンション二・七％減と大幅減少。消費税率の駆け込み需要も終了し、五カ月連続減少。消費特需も終了し、当面は見込みなし。

自動車は生産が一カ月ぶりマイナスの一・七％減。また八月の国内販売台数も前年比五・五％減と再び悪化。販売に減少の兆しが見受けられ、メーカーもそれに伴い生産を調整したため来月に降に注意。

消費税率の駆け込み需要の反動から二本柱の住宅が減少傾向に。先行き共にどの水準で落ち着くか注視したい。

スクラップ需給に関しては、為替が前月から一円以上安い一〇二・一〇四円(TTM)近辺でいい水準ではあるが、アベノミクス特需も七月以降陰りが見られるが、自動車に関しては米中の自動車生産が好調なことから輸出が需要を引っ張り、引き続き供給不足。アルミ価格に関して

今月はECBの金融政策、及びロシア・ウクライナ情勢に左右される。

ロシア・ウクライナ情勢に関しては米欧が対ロシア制裁を強めているものの、中国が対ロシア政策に難色を示しており早期解決は今月中はない。

それらを踏まえた九月のアルミ価格はECBが量的緩和を行わず、ロシア・ウクライナ情勢が現状から悪化した場合、アルミ輸出であるロシアからの供給懸念から、七月高値のもう一段高の二、二〇〇ドルを予測。いずれの場合も二、一〇〇ドル。下値はいずれの条件も達成できなかった場合も一段安値の一、九〇〇ドル。

為替は注目のジャクソンホールでのイエレン発言が特に材料視されなかったものの、金融緩和の終了ペースは鈍らないと観測や、ECBも量的緩和を早期に行うこととはないと観測判断の対円・ユーロでのドル高から上値は七月高値の一〇二円台。下値は変化なければ、一〇四円まで円安進むとの予測(TTM)。

メーカー・スクラップ購入価格は五・一〇円高と予測している。